

令和5年度事業報告

今年が開館9年目を迎え、「ウイズコロナ」から「アフターコロナ」へ転換期。自粛していた移動児童館やまつり等の人を集めるイベントも徐々に増やし、これまでのやり方に拘らず、利用者と共に楽しめる企画を考えたいと職員一丸となりやってきた1年であった。

また、子ども達や保護者の「心の避難所」となるべく、小さな変化を見逃さず関係づくりに努めてきた。ちょっとした声掛けから辛い胸の内を打ち明ける保護者。子どもの様子から気付く家庭の不穏感。しがらみのない児童館職員だからこそ話を聴き気持ちを汲み取ることができたと感じる。「ここに来れば話を聴いてもらえる」大人も子どもも思ってもらえる「身近な居場所」として定着してきている。

1. 乳幼児・保護者向け事業

(1) 総括

定例行事である『すくすくひろば誕生会』を企画・実施。親子のふれあい遊びや絵本読み聞かせ、季節毎の制作活動を行っている。その中でも手形を用いた工作は成長記録として喜ばれ人気。1歳を過ぎて動くようになってきている幼児親子が安心して遊べるよう、遊戯室を開放した『ちびっこらんど』も好評である。

『パパママタイム しゃべり場』では保護者の子育てでの日頃の悩みや疑問を共有したり質問したりすることで、不安に思う気持ちを解消する場となる。

「朝食を食べなくて困っている」と言う母親に同席の母親が「時間を決めて食べなければ片付けてしまってもいい」と自身も悩み、保健師へ相談した時の経験を話していた。実体験で良かったこと、失敗したことを話せる場となっている。

また、以前行っていた資格を持った保護者の発表の場やスキルアップを目的とした『ママの応援プロジェクト』を今年度はイベント内で実施した。

希望のあった3名の保護者が講師となり体操やベビーマッサージ、ベビーヨガと合計4回行った。講師が顔見知りの母親と言うことで、講師も参加者もリラックスし癒しの時間となっていた。

今年度の子育てオーエンジャー☆みなみ主催『わくわくひろば』では、母親達に一時でもリラックスした時間を持って欲しいと考え『ハンドトリートメント』を企画したところ直ぐに定員に達し、関心の高さを感じた。四六時中子どもと向き合い一人の時間を持つことの難しい母親にとって、僅かでもリフレッシュする時間を今後も提供していきたい。

3月中旬より館内のマスク着用が個人の判断に委ねられ、次いで5月上旬には新型コロナウイルス感染症が5類に移行となったことでイベントの人数制限緩和を行った。

『幼児ハロウィン』、『クリスマス音楽遊び』、『ちびっこ豆まき』では以前のような賑わいが戻り、親子で楽しそうに参加する姿が印象的だった。

また、自粛していた『0円バザー』も多くの要望に応える形で5月の『ミニミニはるまつり』から年間5回行った。利用者との会話が発端で始めた企画だが今後も継続し笑顔を増やしたい。

(2) 課題

今年度は土日に新規の区外からの利用が多かった。反して平日の利用が少なく定例行事の『すくすくひろば誕生会』では利用人数の状況から予約なしで実施していたため、事前準備する工作材料の無駄が出ることもあった。また、平日開催のため参加できる乳幼児が限られてくることから、広く参加してもらうため見直しが必要と考える。また、『ママの応援プロジェクト』で講師となった保護者の育児休業が終了し職場復帰をしたため、これまでのように平日に講師をすることが難しくなっている。新たな人材を待つだけでなく、情報収集を心掛けたい。

要望の多い『0円バザー』から発展させた『譲ります・探しています』掲示板を検討していきたい。子育ての悩みは尽きないものだが、話すことで楽になり元気になれる。これからも保護者に寄り添い少しでも負担を減らすお手伝いをしていきたい。

2. 小学生事業

(1) 総括

平日は放課後児童クラブ『茨っこクラブ』の小学生の利用が大半だが、一緒に遊ぶ目的で保護者の送迎や徒歩、自転車で利用する常連の小学生も多く、皆で賑やかに過ごしている。体を動かす遊び、読書や児童館のゲーム機、おもちゃ遊びなど友達同士誘い合って遊んでいる。初対面の小学生も仲間に入れて遊ぶ姿が見られ、幼児に声を掛けたり一緒に遊んだり異年齢での触れ合いも見られ思いやりの心が育まれている。また地域外の子との交流は様々な考え方があることを学ぶ場でもあり、中学に入学してから見られる「中1ギャップ」の観点からも児童館での学びは少なくない。

土日は区外からの利用が増加している。SNSで調べて来館したと言う親子も多く先の交流等でリピートして下さっている。

定例行事として『学習のつどい』『遊戯室タイム』『小学生誕生会』『季節の工作』等を行った。その中で『小学生誕生会』は昨年度、毎月実施していたが誕生月の子が少なく恥ずかしい等の理由で参加しない子がいたため、今年度は3か月毎に年間4回実施した。これにより全員が参加でき来館のみんなで祝う場となった。

照れながらも質問コーナーで答える姿は微笑ましい。自分の誕生月の実施を待ちわびているとの声を保護者から聞き、子ども達の中で楽しみとなっていると感じる。

その他行事として『スポーツ大会』『夏休み工作』『ハロウィン』『防犯講習会』等運動、創作、季節感、防犯意識を重視し子ども達の主体性を大切にしながら行った。

『学習のつどい』は「みんなが主役」を活動テーマに掲げて4年目となった。農家の多い地域のため、休日も仕事をする保護者も多く土曜日の居場所作りとして始まった。児童館は常に誰かがいて自分の思いを受け止めてもらえる。そして生活リズムを整え安心できる居場所となっている。

昨年度同様、今年度も子ども達が主役となる場を増やしてきた。そして子ども達がもらう拍手や歓声が保護者にとって「子育てを頑張っていてよかった」「明日からも子育てを頑張ろう」と言う原動力になってくれればと考える。

地域の敬老会では初挑戦となるハンドベル、手話合唱を行った。クリスマスのイベントでは、楽しむ側から楽しませる側へ。それぞれの得意分野の発表

「しゅあはぴクリスマス会」を行った。イベントの企画、実行、司会など挑戦、自己表現、成長を見守れた1年だった。

今年度は初の試みである『南区4館合同ドッジボール大会』を白根児童センターを会場に行った。1～3年生の低学年の部、4～6年の高学年の部で戦い、低学年の部は優勝を勝ち取った。子ども達の感想から「他の児童館と全力で戦って結果的に負けたけど楽しかった」と勝負だけではない感動や喜びを感じてもらえたと実感した。他3館も同じ感想が聞かれ来年度も実施することが決定している。地域を越えた交流も子ども達にとり様々な刺激となったようだ。

(2) 課題

新型コロナウイルスによる臨時休館以降、目に見えて新飯田、庄瀬地域の小学生の利用が減少。今年度より本格的に移動児童館を開始し地域へのアプローチは手応えを感じるが、今一つ小学生の来館に繋がらない。放課後の過ごし方も変化し身体を動かして遊ぶよりも動画視聴やゲーム機での遊びが主流となった今、保護者の

「ゲームから離れ、児童館で身体を動かして遊んで欲しい」想いと子ども達の現実は違う。一度来館し他校の子たちと触れ合い、楽しさを実感した子はまた遊びに訪れる。

それには「児童館」の良さを感じてもらうため、各地域の放課後児童クラブや地域、学校へ移動児童館で伺い白根南児童館の存在をアピールしていかなければならない。

3. 中高生事業

(1) 総括

今年度は4年ぶりに白南中学校の2年生2名が職場体験で来てくれた。小学生から大歓迎を受け、中学生が遊びを企画し一緒に遊んだりボードゲームをしたりして触れ合っていた。小学生、中学生共に有意義な時間の共有だった。

平日は忙しくなかなか来館は難しいが、土日は友人との待ち合わせ場所にしたり空いた時間に寄って職員と話したり、学習道具を持ち込み勉強する姿も見られた。

高校生については新飯田地域の移動児童館に伺った際、白根高校生ボランティア4名が小学生のサポートや片付けを手伝い助けになっていた。また庄瀬地域の移動児童館では中学生がイベントの手伝いや参加をしていた。移動児童館にも寄り自分達も楽しみ、幼児や小学生と一緒に遊び、児童館職員とも話しながら交流の場を持つことができた。

(2) 課題

中高生の利用促進のため、『中高生タイム』を設定したがその時間に目掛けての来館がなく実現が難しかった。しかし長期休みに中高生が誘い合って来館し、バスケットやサッカーを楽しんでいた様子から、特に時間帯を決めずに利用するこれまで通りでよいと思った。また、イベントのボランティアを早い段階から中学校へ依頼し企画の段階から一緒に考えてもらい中学生の力を借りる活動も検討していきたい。

半面、毎日の忙しい学校生活の中、気心の知れた「身近な大人」がいてゴロンと横になり漫画本を読んだり、身体を動かしたりする時間を持てる場所でもいいのかと思う。「児童館は小学生まで」と決め付けている子には「居場所」としての PR も必要と考える。

3. 地域との協同事業

(1) 総括

今年後も地域の方々のお力をお借りし様々な事業を行うことができた。

茨曾根地域では、地域の茶の間「五九郎会」と小学生の共催事業として色々なイベントを企画していただいたが、天候により枝豆・さつま芋植えのみの実施だった。参加の小学生は地域のお年寄りに植え方を教わり、温かく見守っていただくことで楽しみながら充実した経験を積むことが出来た。庄瀬地域では、庄瀬地域防災士のお2人を迎え『防災教室』を行い幼児から小学生が防災の知識を学ぶ機会を得た。

児童館内では、コミュニティ茨曾根、子供部会との共催で『星空観察会』を行い児童館、遊戯室の天井をスクリーンにし、星空を映し出し見事な景観を楽しんでいた。

非日常を経験し、未知の世界への探求心をいざなう貴重な経験をさせていただいた。

(2) 課題

地域のおすすみを地図にして広く知ってもらおうと『地域のおすすめマップ』の情報収集を行ってきた。地域のおまつりに移動児童館で伺った際に情報を頂いたり館内に用紙を設置したりした。

今年度中に完成とはいかなかったため、次年度完成を目指したい。

4. 移動児童館

(1) 総括

コロナ前は主に小学校や放課後児童クラブ、保育園へ伺っていたが、今年度は各地域の方より声を掛けていただき地域のまつりやイベントを中心に全14回移動児童館を実施した。人員配置の理由で1人だけで伺った時は、当日お手伝いをお願いすると新飯田地域では、小学生や保護者の方が快く協力して下さった。

それまで児童館をご存じなかった方も多く、お話をさせていただきながらPRすることが出来た。また、各地域の移動児童館でお会いするうちに直接児童館に来て下さりその後も継続して利用して下さる方が多かった。

ご近所の方でさえ存在を知らずにいる方も多く、「近くにこんないい所があったなんて」と言わせていただく。移動児童館は児童館の認知度を上げ、来館に繋がるとてもいい機会だと実感する。

放課後児童クラブでは、季節の工作や身体を使った遊び等希望に沿った内容を行っている。マンネリにならず楽しみにしてもらえる企画を提案していきたい。

(2) 課題

今年度の計画として、庄瀬、新飯田地域で『学習のつどい』を行う予定だったがアンケートを取らせていただいた際、要望が少なかったことと、人員配置の関係で定期的に職員が伺うことが難しく実施出来なかった。その反省を踏まえながら来年度は伺う回数を増やしたい。また全職員が交代で伺い広く顔を覚えてもらい交流を深めていきたいと考えている。

来年度も多くの笑顔に出会うため、地域と共有しながら進めていきたい。